
With

星 明莉

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

With

【Nコード】

N5884E

【作者名】

星 明莉

【あらすじ】

「C シンフォニー」のキリ番4444リクエストを受けて書いたもの。新一と蘭の結婚後のお話。ラブラブ新婚、初々しい2人にまた新たな贈り物が…。ほのぼのだったら無駄に新婚アピってます。笑

朝が冷える季節になってきた。
まだ薄暗い空に少し顔を出している太陽を見つめる。
あの日もこんな朝日を見たな。

新一と私が夫婦になって一年。

不安と期待でいっぱいだった結婚式の当日を、窓の外の景色と共に
思い出していた。

「蘭、おはよ」

「新一」

私は嬉しそうに振り返った。

挨拶の代わりに目一杯の笑顔で返す。

「もう行かなきゃなんねーんだ。朝メシはいいから」

私の笑顔は瞬間的に驚きの顔へと変わる。

「もう行くの？まだ朝の6時よ」

「ああ…昨日のヤマがまだ片付いてねーんだ」

新一は手を口にやり、大きなあくびをした。

「それより蘭、大丈夫か？体調良くねーつつってたる？」

「うん…あ、新一」

私はすつと新一の首筋に手を伸ばす。

まったくしょうがないなあ、新一ったら。

「ネクタイ曲がつてるよ？」

そう言いながらきちんと直してあげる私。

思わず笑みがこぼれた。

「サンキュー」

新一は私の頭をぼんと叩いてくれた。

「いってらっしゃい」

「おう」

新一が好き。

新一が大好き。

私は新一を見送った後、ホッとひとつ息をついた。

今日はパイでも焼こうかな。

とびきり甘くて美味しいパイを。

だって、今夜はとびきり素敵な夜になる。

そんな予感がしてる。

オレは元の体に戻りきった数年後、捜査一課の刑事になった。

“ 蘭。オレと結婚してほしい”

あのポーズをした日のことは今でも忘れられない。
いや、この先も忘れることはないだろう。

『桜田門〜桜田門〜御降りのお客様は…』

オレは混んだ電車の中をすみません、と言いながら掻い潜って外へ
出た。

空はとても澄んでいる。

美しかった朝日はより光を増してこの空を昇っている。

蘭、覚えてっか？

オレ達が結婚した日もこんな空だったな。

蘭が好きだ。

蘭が大好きだ。

オレは空に向かってフツと笑うと、警視庁へ歩きだした。
しかし段々と足取りが重くなっていく。

蘭：身体の具合は大丈夫だろうか？

「…うくん？工藤君！」

オレは高木刑事の声にハツとした。

「あ…すみません、なんででしょう」

「いや、大丈夫かい？ボーツとしてたけど…」

ポーツと？

してた？オレが？

やべえ。

蘭のことが気になってしょうがない。

「実は…蘭の体調が近頃あまり優れなくて…」

「蘭さん、具合悪いのかい!？」

高木刑事はデスクを叩いて勢い良く立ち上がった。

「工藤君！大変じゃないか！！早く帰ってあげないと…」

オレの手元にあった書類は高木刑事にひったくられた。

「こんな調書、僕が書いておくから!!」

「高木刑事…」

オレは深く考えずにお礼を言っ、一目散にその場を立ち去った。

なんだか胸の奥がざわついている。

それが良い予感なのか、悪い予感なのか解らない。

ただ、すぐに家に帰らなければならぬ。

そう感じていた。

蘭、もうお前を待たせるわけにはいかねーんだ。

お前がオレを信じていてくれるから、オレはその気持ちに伝えてみせるよ。

家の前に着いた時にはすっかり息が上がっていた。

近くの公園の時計に目をやると、時刻は夜の七時。

いつものオレの帰宅時間よりずっとずっと早いが、立派な夜だ。

それなのに…

家の明りが点いていない…!!

「新一？」

!!!

オレはその優しい声に勢い良く振り返った。

「蘭…」

「どうしたの？今日は早いんだね…」

「バーロ…ッ！…」

オレは蘭の両肩をぎゅっと掴んだ。

「何やってんだ！…具合が悪いのにこんな夜に出歩いて…！！！」

もしオメーになにかあったら…。
守ってやれなかったら…。

オレは…。

「新一…すごいニュースがあるの…」

「え？」

蘭は肩に乗っているオレの両手を無理矢理自分の腹に押し付けた。

「蘭？」

「新一、あのね」
蘭は微笑んで言った。

「三ヶ月…だって…!!」

赤ん…坊？

オレと…蘭の…！！

「ら…ん」

オレの両手は小刻みに震えている。

次の瞬間、オレは蘭をきつく抱きしめていた。

「よっしや

…！！」

「新一！！」

ねえ新一。

あの日、あの空の下で約束したよね。

ああ。

ずっと信じ合っていていよつって、な。

じゃあまた同じ空の下で約束しようか。

新一。

蘭…。

これからずっと二人で、永遠に奇跡を生んでいこう。
そう、二人一緒に。

- E N D -

(後書き)

(あとがき・・)(ノ)

新蘭結婚後、とのリクでした。

子供の絡み薄くてごめんなさい！！

どうしても名前を付けられずこんな形に。

警視庁の最寄り駅の名前をたった今知りました！！

聞き覚えあるなと思ったら井伊直弼じゃないですか。笑

桜田門駅っていうのか。

ちよつと感動。

知らない人がいたら教えてあげたい！！！！(いないいない

愛様、この度はキリ番4444踏みおめでとございました)・・

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になるうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能^{たんのう}してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n5884e/>

With

2011年1月27日07時29分発行